

別府大短大 江後迪子

目的 江戸時代における武家社会の様相を知るため、前報につづき白杵藩稲葉家の祐筆日記（御奥日記）における人生儀礼について調査した結果について報告する。

方法 史料は享和元年（1801）より明治14年（1881）までの80年間（文政 9欠落）、江戸上屋敷、江戸中屋敷、江戸下屋敷、江戸鼓屋敷、江戸役所および白杵城（白杵屋敷）についてのべ 120年分がある。この日記は日々の動静が詳細に記されているが、明治 8年以降の 5年分については記載内容が著しく少ないため、明治 7年までの 115年分について考察した。

結果 人生における通過儀礼にはさまざまなものがあるが、史料から婚礼に関わる儀礼をはじめとして着帯、出産、お七夜、宮参り、箸の祝儀、誕生日、袴着、髪置、袖留、紐解、元服、鉄漿などの他死に関わる儀礼や法事などについてまとめた。婚礼に関わる儀礼としては結納、引き移り、婚礼、三つ目、里披き、舅入りなどがある。婚礼には干鯛や塩鯛が用いられているが、殿様の婚礼の場合には鮮鯛が多いなど身分や地位による差がみられる。また、着帯についても稲葉家から嫁いだ子女の場合には岩田帯の他干鯛が、親戚などの場合には肴・赤飯というように差が認められた。儀礼に関わる食べ物にも干鯛、肴、赤飯などが多く用いられているが、特徴的なものとしては三つ目の皆子餅、出